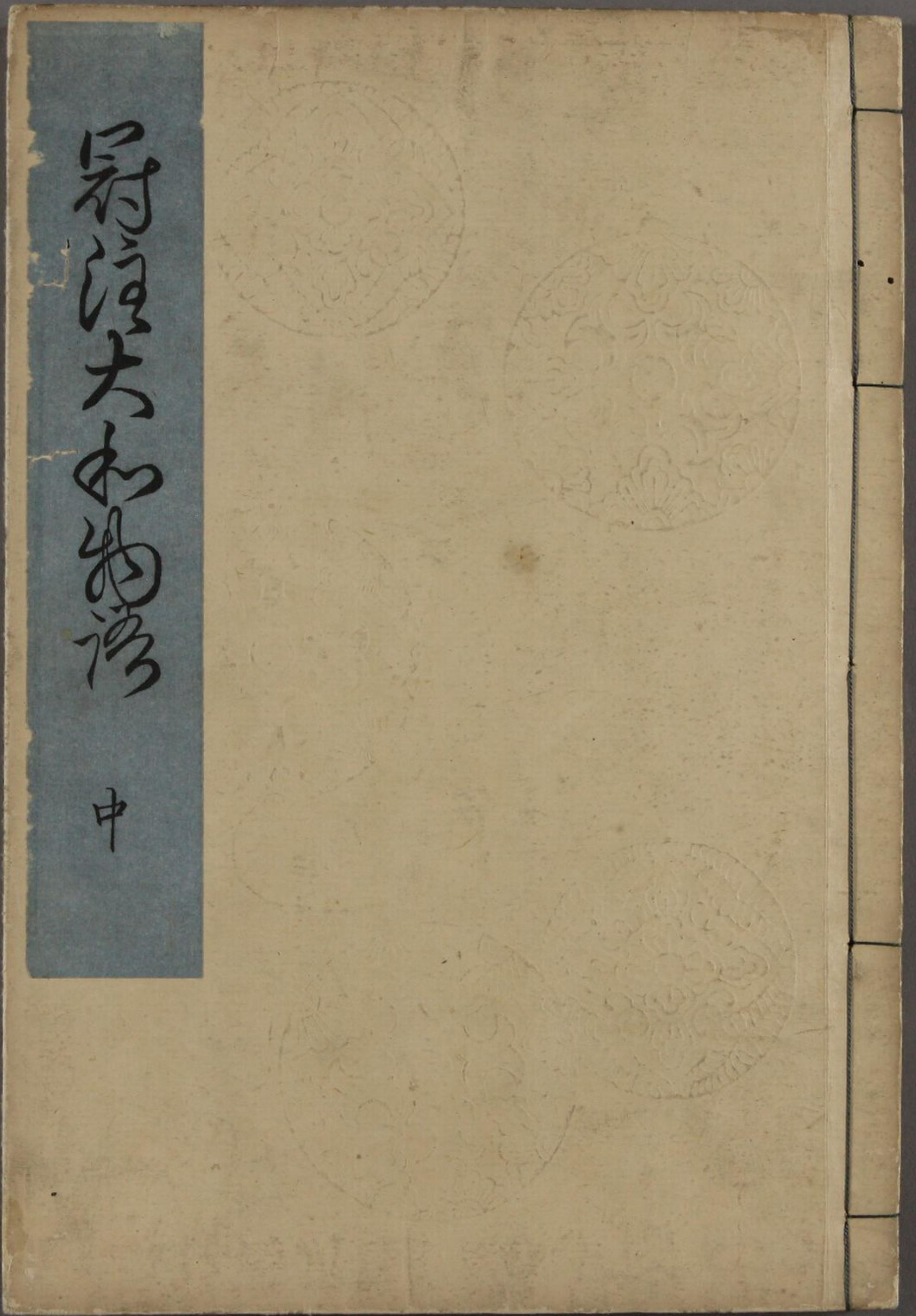
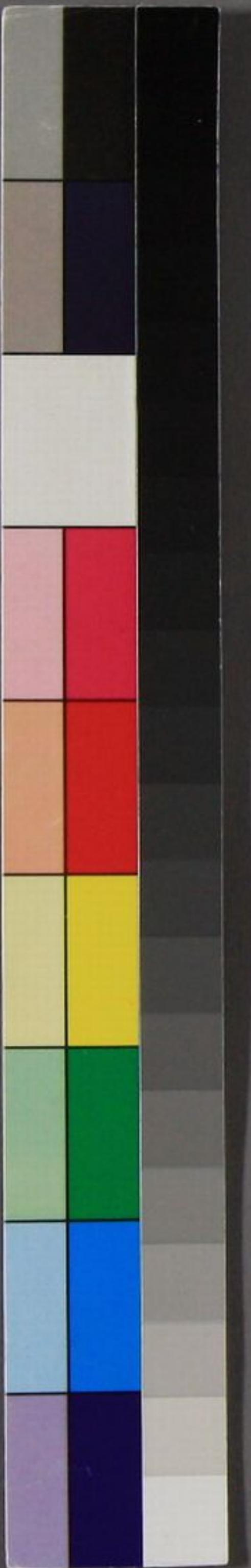


中華書局影印



60 1 2 3 4 5 6 7 8 9 70 1 2 3 4 5 6 7 8 9 80 1 2 3 4 5 6 7 8 9 90

元良親王清集

風小うて
萩の葉たれ風のま
ふうれいじあひ
くまくわくたる
かみのりとく

うき小うはせへつむく、のうを

うれしわが室

新勅恋四

清集

あやめとすくはなみくわせ川の
うきえ室川までまほ
の葉の河とくわ

うれしわが室

新勅恋四

清集

せせらのいまとくわせ川の
うきえ室川までまほ
の葉の河とくわ

かしき女せくわせ川までまほ
あくのーあくわせ川までまほ

あやしむふ月のいわあひづきは

よみゆうする

賣集 うれし 小少てんとくわざれ

人かづきひやまな舞
とよひもひくまかへて扇とおとー
絶うらばとくわざれ ひちくわせお

ゆふかく、のくさ

並集是本 うあくね

はあらじあ
あらわすよき
えうめうめき
きゆうき

とのうけをとくさく

ゆー

いがく

とふうせうか
ぱりかづか
うまれんと

うかくわくわくわくわくわく

同

ゆくはくはくほゆくほくほく
うくよくよくよくよくよく

あくのうく

うく

とくよくよくよくよくよく

あくあく

かくかく

あくあく

かくかく

スホホー

うく

わくわくわくわくわくわくわく

秋月のゆー おうづかくわくわく

うく

わくわくわくわくわくわくわく

いふかくはくのいまとあくは

とくと下のうへ、
とやうつてうやう
一はなみのいと

とあゆ

こと肉ま方ハラマカとと
ハラマカとと

とと肉ま方ハラマカとと
ハラマカとと

か魚

あれとととととと
いととととととととと

ととととととととと

ああああああああ
ああああああああ

内山のがんのき

系圖云貴子保明太子
御息所後重明親王北芳

兵溝のさと
掛小吳牛小馬房のかく

のえとあふまかく

かのじま山

かのじま山

貞信公

とと肉ま方ハラマカとと
ハラマカとと

わのまへるはくしゆきまほり
えあふうせんはゆのひのく

おおへり

おおへりあらひゆく神月

きくい

系圖太源公平宮内共

輔大藏卿因紀三男

あらのゐ

於苏抄玄縣井戸一条

北東洞院西角

わらひす

寺のあらじう

さねあさう

歌仙傳源信明天曆

元年備後守公忠男

やれちのやま

三途川といつて死て

かの河といつて死んで

あらうる男と女が

うらうらきこわい

十王經玄葬頭河曲於

初江邊官廳相連義所

渡前大河といつて初開男

負其女人牛頭鍊棒挾

元肩追渡疾瀨とい

うな傷候あれどちまご

とくめ

わらひす

系圖六度正左兵衛天曆

元三卒といふ兼輔の男

あらむよあつて

あらうづてのるが

あらうづてのるが

けふなしきうちをかくす
くらむよやうとられはよくやうとある
けよふくかくすよやうめりの
あらゆとあれかとくわく
されすもみる

智者語

同女はうき清耐もろくすまひ
てよくやうめくよやう風吹あまよ
えうりのうかる

あらむよよくよよくあく

あらあ／＼と
あ風をふ波がと
そあく風のや
つ風が

院内家
うきは院内院の家
かす

新羅尉

新羅院

新羅尉もあれと後院のまづの翁
人されといかうけさる物なり
やくわくよ難ゆく、の翁もくとみく
やまくま。

まくのまくあ／＼としる衣を

まゆとすうかふうわう
あ／＼とまれり衣あれ

マクハラ／＼とくとく
ミムラ／＼

景公きのものと
あきゆく／＼

か／＼と新羅尉のゆほはくくわく

あだけふ

カ／＼とふるのまくまく

むくまくとくまく、やまくまくの翁

まやくまやくまく、かくも、れは女
のよひにまく

わやくむたやくめりか／＼月
か／＼

あ／＼とおゆく／＼

あ／＼とおゆく／＼まくまくの翁

まくまくとくまく、ねふまくまく

か／＼のま、セタのまく／＼の翁

小あいだすじまく／＼やまくまく

たのゆゑひ小
系圖太師輔兼平元
閔忠補藏人頭さ
小武のめれと
天厚内乳せ

神ともしかばくまーのとく取るよ
あつねわのれり まちふにる、れ
ちのゆゑひふねく うまふとす、り
小武のめれとめかくふまくとひく
続後撰恋三
秋のあはまてとみゆきとひく
いましのれふるるのとくの耶さ

せやま

祭りと歎あらむおのむことののはく
そこのへりめふとせりものとくまけき
きしひのじくめとく

あづく
ちとのうづく

かく 二字

歌勅恋四
義道

神ふあらむおのむとくの御とくと
かくのとくよあらゆ

果度のねひく

続古恋二

かくのとくよあらゆ

残古とふまく、う
とあふとく、一
まくこくとく、きく

あくすみくぬか
かく真樹とく、ハ
ひく信の集云承流
のむかくもくは

果度のねひく

ユナ九

口すもあへばまう
きらうてあそぶ
こひのうとる

かくしてちいじ

からとも小ちいじ

信能
ち系園小源急男

陰奥寺（後撰）

下作志（後撰）

信明と（ねきよ）と

うあやれと多小猿

原とあらりゆう

スあまえあらかう

くでのふる院

大兵のきう（考）

死天山

十王経云簡龕王國

塊死天山南門七八金

過兩莖相逼破膝割

膚漏髓死天童死故

言死天（考）

男ちかとよりひじよをとあらうよも
家
晴まゆつげどりの傷よも

おとくぬゆとふたなきとむか

わらひきのゆ

あらゆだゆのゆとふゆ

わゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

こうゆゆゆゆゆゆゆゆ

もくありやうゆゆとはゆふたは

なうおゆゆゆゆゆふわゆたれ

おひすね
公卿補任（忠平公兼
平左衛門良政大臣
従一位）、仲平公兼平
三年右大臣正三位、
大徳元年（貞信公）
八歳（忠平公）
廿九年（忠平公）

ちくまのまき
さまくのまきのまき
かくはやくとまきの
まきとく

こくのまき

口笛を笛の音を

さあくまき

ちくまのまきふねとあづれ
さあくまきのまき
かくはやくとまきの
まきとく

ちくまのまきふねとあづれ

さあくまきのまき

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

か魚かぎ一

いづれせばうつめとわづらひ
たのこまむかせよみづか後

あひくわづらむかはしよくわづら
うきかのばせよくわづら

なむくわづらむかはしよくわづら

かうよおおおお。

くまのまふかれらるのオそれや

帥大納言

古今目録箋經卿

寛平六年太宰帥

延喜二年大納言

はわみつ宇治大

納言とある

牛院の時平公 棟梁女 妻
すくのりすみかよすゆきよゆきよゆき

てきよきよきよきよ

ものまふとくふくよきよきよ

わのまくのまく

みくはいきく

のへてお
ひきあひあひせふ
えをやさせ
きのうのうふと
かくはすき
うひのき

ゆくあひせふ
樂ア
とくに
とくに
わのむかひのりはれ
ものむかひのりはれ

泉大將

公卿補任玄定國卿

喜元年右大將二年

大納言

おひくあひくゆく
ひきあひくゆく
ひきあひくゆく
ひきあひくゆく
ひきあひくゆく
ひきあひくゆく
ひきあひくゆく
ひきあひくゆく
ひきあひくゆく
ひきあひくゆく

忠岑
古今目録玄右衛門
有生之

かやくさのやまと様
満ちる驚愕と
ゆく事すの様と
きりそめども
やまより退きづけ
こと

古語拾遺云當此時
上天初晴衆俱相見
面皆明白伸手歌舞
相共稱曰阿波礼阿
那於茂志呂阿那多
能志かがく歌教の

忠岑は作ふあらわしのかみね
ものじよせまつせむ内消息下
階下

かわくあさのやまと様のまこと
よもかみてんじよせむか
いわくの様とすとあくのおどりと
あくれふよつとわりこせりよ
わからぬよるまあうひぢうとたねふ
物のハルムあさかみかハルムだらうと
其のうきのひとあるあくとせりてある

かくすやまと様ひけとをくみみわと

よ絶被ハラマツのとあまひ一牛身ウシジンの

ほくりとやすわたりよどりとよめ
うきとよめ

ハラマツ

やのうのひととよめかわ

ひとひとよめとよめかわ

よめよめあらけのあらけよめよめ

よめよめよめよめよめよめ

もくよののよのよの
友人魚鳥度是の彼
を集補注ふくくく
論

方

六十四

せばまふくらうの
白女うめひのた女を
後撰發ニ云つての
白川とさるみまし
竹下ふくらが美原
興花船のまづ
やうづふあさん
さとまつてひやり
れふあくとじ
さうかく

いきの姫

ううれふあま舞
角のううめひと
朝下ううれさ
は興花船のあさん
うの浦涼ふくべ

せ、絶色だらうのふあまむらう
かうりかくまくは、絶純をのゆか
きふあひあすやすほろもあのをじ
ましとくられくに
ひまかうとあく 墓古の役
かくまくは、おのとくのあおとく
さくまくあつねきみよかのまくじと
ふにのてもとくいつふのまくじと
かくまくはけかくふたん役くと
ーなとくあくとしもとまくわは

好古

かくまくは、おのとくのあおとく
さくまくあつねきみよかのまくじと
ふにのてもとくいつふのまくじと
かくまくはけかくふたん役くと
ーなとくあくとしもとまくわは

せかううやわきりいのふたくふき
あうねー、のふくまくほり
せーうきおうあのみくみあなまくほり
よきあやーきやうたうあふたくま
けまく、
まくまく下さやひの
ああかくふせとく
竹下川うめのふ
れえとく
きりと
家 おさかの

まよ
うへきとりみに
あひのふる声
あひの男のかみ
あひのああく
あひのういき
まき
まくまく下さやひの
ああかくふせとく
竹下川うめのふ
れえとく
きりと
家 おさかの

せかううやわきりいのふたくふき
あうねー、のふくまくほり
せーうきおうあのみくみあなまくほり
よきあやーきやうたうあふたくま
けまく、
まくまく下さやひの
ああかくふせとく
竹下川うめのふ
れえとく
きりと
家 おさかの

まよ
うへきとりみに
あひのふる声
あひの男のかみ
あひのああく
あひのういき
まき
まくまく下さやひの
ああかくふせとく
竹下川うめのふ
れえとく
きりと
家 おさかの

せかううやわきりいのふたくふき
あうねー、のふくまくほり
せーうきおうあのみくみあなまくほり
よきあやーきやうたうあふたくま
けまく、
まくまく下さやひの
ああかくふせとく
竹下川うめのふ
れえとく
きりと
家 おさかの

たゞ小島て上下の歯

のしめーあやうふ

あくまとりへつる

迄立てりの處市

川氏平小すりてこ

まつち歯カニカニふせ

うとまつーくしづ

白川

肥後國阿曾アソ山

山山山疏後風

記云肥後國朝宗縣坤

二千余里有一禿山頂有

靈沼リョウザウ々々時々水滿後南

溢流入白川シロカワ々々

あらめ

うちきとおあさま

あれとちらひ本草の

下小きとが小冠コウのまと

同一尺イチシルくちきと小

もさうわあくわくと

モーとあくわくと

あくわくとあくわくと

えまゆあくわく、つまむぬまくあくわく

みれあく祐人太武のあくわく、おのあく

まくわくれば

席シヤクのねくいくとくのくわくあるお

あくわくつまくわく山ちくもく

けむのまのま、あなうひとといひを

のまもあつまくまくわくかくわくまく

はまマまくわくかくわくまく

同 カくのまのまくわくわくわくわく

まくわくまくわくわくわくわく

まくわくまくわくわくわく

まくわくまくわくわくわく

秋のやまくやまくわく、みゆく

新後熟恋シキシタツヨシ三笠令ミツカヒヨウぬ

檜垣家集ヒガニヤシキ同

これもはく、あくわく女

とやくんじくまくわく

あくわくくわくのばくまくわく

ひ老ヒシテあくわく

お

まくわく

秋のやまくやまくわく、みゆく

新後熟恋シキシタツヨシ三笠令ミツカヒヨウぬ

檜垣家集ヒガニヤシキ同

ちまくわく、月おうちふくは

とやくんじくまくわく

これもはく、あくわく女

とやくんじくまくわく

あくわくくわくのばくまくわく

先帝の當時御月のつらものと云ひ
のたぬきぬとすを経て公忠

延喜

五ナシ

もとさださのすうとうとい次の

のきりるとなむとくの御

如

とすくよみ御す

朝恒

古今目録延喜年
正月十三日任丹波權大督
御厨司所同工一年正月
吉日任和泉權様ニ
和名抄ニ劉熙叔名六
弦月月之半名也其形
一旁曲一旁直若張弓
弦也弦月和名由美八利
有上弦下弦

わがまことの時の朝恒ハモニも
月はいとせむ一うに其處をひあわち
も月とちをまとりす月の名ハモニれ
やつまつれとおわを経てされは
は月のわふかましいほのうまつて

まつて

大鏡

てふ月とゆふくととくとくのち
山とけくへばなむくと
福ふかむうやうきくつまく

大しき、男やを
用の衣、うそき、
女やを、うそき、
とのあく、うそき、
の後、うそき、大褂ホウ
白シロふたてく等
小肩コルとく等

まつて
延喜月のなむるきねまつて
みまつてのちのゆうくとくとくの
うせびくらまゆまとにらめきまゆ
りまそれふあはくまつて

このむらのまひのまねたる女ひ
はあまれよせむへにうやむかん
まくちとてちく^清めが
めぐれわらひいづれくわくです
そといどくもとくに事ひ
やーのまほう家君公
家集

万葉小本上
東公忠みて生歎と
さき

口^{延喜}のひのくわ
あくはふこそわむれ
わくわくはなはなはなはなはなは
たまくま

先帝^{延喜}お内時アリあるアリ
されやまくわふまく索ニテ
くらへて^蟹あゆ一^秋をすは
をくすはきそだく^秋をすは
たもの^のま^ノセうみ

新勅^三

あくはれうれやう^秋をうみ
河^{ナシ}よひとあくれとくわり
やみま^ハせん^カはく^ハみくわくわ
うかくわくあくれふせわく^ハきは
のひあく^ハあくもくわくの

ま
すきかへゆくもの
うけのたと

物の

ち佐日記正月セリ集

云移くも事も彼

波川をもとある

かくはりあつてお

鴻がうつておなむかこ

さみやおせらまお

さみやおせらまお

鴻がうつておなむかこ

百ひりとかやつられればまともあらふ
さみやおせらまお

定方

兼輔

古今目録を兼輔延

喜三年正月仕内藏助

さみの

新秋恋四
ナシタガラシ恋女

新秋恋四
ナシタガラシ恋女

新秋恋四
ナシタガラシ恋女

古今目録を兼輔延

喜三年正月仕内藏助

さみの

新秋恋四
ナシタガラシ恋女

新秋恋四
ナシタガラシ恋女

新秋恋四
ナシタガラシ恋女

古今目録を兼輔延

喜三年正月仕内藏助

さみの

新秋恋四
ナシタガラシ恋女

新秋恋四
ナシタガラシ恋女

新秋恋四
ナシタガラシ恋女

古今目録を兼輔延

喜三年正月仕内藏助

さみの

新秋恋四
ナシタガラシ恋女

新秋恋四
ナシタガラシ恋女

新秋恋四
ナシタガラシ恋女

志賀の山、白川の流のかへりよ
このやまとめさる故に
こゝへあまび出る道
あくとくいえむち
わうかみ

志賀の山の道ふりゆくとて
お高野の山もあどいゆきのうは
お高野の元良
経りて時々まきよすとて
のじくおもててあまふせうつ
女とよだまく時もまく衆がわらひ
いよゆるとすがまよつてらつと
かくあふまへくつうりあれ
めくたまへうなづんあまくま
うのまのまく

志賀山小舟
とくじゆうとてあ
白浪河なかる
古く集の作者ふり
えちくゆくあり
立がる色と
つけく

たゞ一のひ、秋うかれ——
とあんみかへりふく
あやくとひしゆくあふくとよ
もいておもをあうけむ

新千載恋一 桃杞左大臣

伊勢家集

伊勢

たけひきへ金あ
ほふくう牛の下
まくたまれ

うへ
同
このくれふがくとうの下草へ
なうへうへゆめほくのれ
じへやくとひひくともあけあ

伊勢家集

いとくのふかく

先帝の店延喜小原萬殿の店息の店

西表山母

一ふや納アシタナの店によくまひ
くまそれをあきなての店アキナテの店と男アリと
一のをとまへるといふが、
風車風カマクラ風車は、ほんとあるから
うあ。よし、
物なとの、
うお。たすけ
うほしげや納アシタナの店と、
あへまひもとまねてた

よこのらげ室とゆきし旅アシタナハヤシ
タタタタはめのりとよむよむた
まほ

木き立

くまよよよよよよよよよよよよよよよよ
やふふふふふふふふふふふふふふふふ
かかかかかかかかかかかかかかかか
ふやうふやうふやうふやうふやうふやう
多歎アシタナのあわふやうふやうふやうふやう
タおとわかくまくまくまくまくまくま

つまゆ

あら川
沖多云海は國島
上野阿久力神社アシタナき
せやうあくアシタナよ
波波アシタナとまく

きくこくすれ

古くもさり 爰之

夜をもれかうき

のねぬうとく

かかれてわう

死ううはうまち

うのせあさとよ

きく

のうの大仰う

公卿補仕ス源昇卿融

公男延喜十四大納言

モハ

きくほんじのき

のあくはふお

をく

相を參えむれ

裂の手のひ

一ひきかくさ

ひのうとく

あくやよめのわのちのくのひ

あくやよめのわのひ

後撰卷四

六

かくよくよのきよふく

ち松

かくよくよのきよふく

つうふ又病一て
たまのうきよと

くまよ少

山城名勝志久世郡余云
土人本奈良路自宇治
坂南有坂路曰栗子山
越え無事あ茶覺元
知彦すくくらりこ山

とシテ

トシテ

一代要記・橋良植參
議後四位上備前守
みくらきを侍して
ひきとくわくまも
たくおゆきのたう
えんがのくわくわ
くわくぶいとそばく
くわくぶいとそばく
尼松抄集と大河小使

ゆくまのやんみわたりはつ
めあひ男志うりうれとくち
どこのしむれよすありけ
あくふせ月ふせんか
くほゆりよすのを
とやんかわゆとくわやわとのめ
るよきくあれ男志うりうれとくち
わくわくれよすあ
とこせよもとゆくけとくわく
くれとくまのせあせわにく

檜垣集

萬小月をえふも
それふかくひきと
あてのれくのま
といくほへむるも
月をとくすてね
とくのとれくも
ひくふりそんのき
きくへきお松抄集
のをくふかく
きくへきお松抄集
男とがくひくふか
うじくうとあく
かのまのうとく
えそせふりのうれ
かくふりて

すつよむとくも
ともひぬのほのつ
くのせきをあつと
あるのふくとも

わがまきかはせか
は男やいのう
物いふにかくとされといふはめ
思ひておんれは女

於世無ふみよ
男の心一かと云て
ちの心もあひたる
男の心ふよそよ
ありえりは誰かく
てはやくもむきの
ああよめに
男と結ぶらしと
と云ふと男
ひつわるや

日暮れは女
もむかえのまか
同

やうじもかくもひじひ
えきはかくのうね

えどはあれどゆうひこそむ

はまくと
橋便集はれにか
そぞれへきと
ひれへきとあくま
くとあくとほね

月と月と月と月と月と
もとあれとゆひとも
とやうへまによすとよんか
くのうそとやうあれきじと
ねほふ男とくまふれは
くわあぬのは ふれわ
たわみれにまくと男とく
くれ、とやうやくわかのまく

三

山崎

和名抄云山城國乙訓

郡山崎夜未

佐岐夜未

考ハ山崎母子の

て院内とアリ

アリ

和名抄云後妻云^ノ和名
宇波奈利前妻和名毛^ニ
吉奈^ミ止豆女^一

人^ノの事と
掛かくの事の發^ス
カク^一あつひの
トモ^トハの事
独^クあきハリ^ハ
桂^ク桂^ク小^シ小^シ
枝^シ枝^シの事と

ひづるをもよぬばの事とシヒ^シ
うめれ男もキムサマ^シナカニ^シ
もはとも^トあらふの事とシヒ^シ男の
多^シ多^シやうとてくふまよみを^シ
これも^トのせもいの事と思ふやうに
ゆふの事終めの人の事とたゞ^シもくさ^シ
るかの事れすあらんれ

カクシキテ

同

カクシキテ
カクシキテ
カクシキテ
カクシキテ

カクシキテ
カクシキテ
カクシキテ
カクシキテ

車^ク每^クの事とて
カ佐日記云月の事
後證書董祀妻傳之
詩^シの遊仙賦^シとて
あ^シの文^シあれ^シ
トハ^シよ^シあれ^シわ^シ

カクシキテ
カクシキテ
カクシキテ
カクシキテ

カクシキテ

七十五

故にやまの山あはれすすみすすめうら
ふ詳 長サ

うきよなほい

房

よのむねたれ

妹

女 も
麦巻いた女 も

かみとねがひ

く

うらへて

く

松葉室ねづれす

く

かの糸云ナニモの山

く

の法めやま

く

かの糸云ナニモの山

く

古今雜下

く

あらわすぬをまつまのやまく

く

うねとくのまのゆき

く

さやくよのじる樹のをとお

く

かの糸の山あはれすすみすすめうら
かの糸の山あはれすすみすすめうら

はるかの山あはれすすみすすめうら

く

・ ねんアリシカ

よのむねたれ

く

一山あはれすすみすすめうら

く

かの糸の山あはれすすみすすめうら

く

かの糸の山あはれすすみすすめうら

く

かの糸の山あはれすすみすすめうら

く

かの糸の山あはれすすみすすめうら

く

かの糸の山あはれすすみすすめうら

く

古今秋下 读人志

キナウ

キナウ

さかのそよぎの葉
ちぬくまきと
てく月廿

日系志三

ひくさあはきの名
まくすよみに
とくさんす
毛恭元小臂等資利奴
陪游さうよ古弓毛小
ハトモーとあて
り日漫あれと游て
さくのまくさうてさ
あるのまくさうてさ
みうちれ

一
升反初染上美えがくて
はまみのまくさう
るるあらか

在中将

古今目録云彈正尹阿
保親王五男さ、貞觀

はれやまくさくや人のまくさく
とくのまくいじやまく物もいとまくさく
一のくじくまくさくをとれやまとと
あくまくとひくねこ一まくふをとまくさく
やまやくとくとよくふくひく
やまやくとくとよくふくひく
わいひくまく
男ひきくさくをせし
なまくさくせし

不詳

有をあねのまくさくをあくとく
免たまくやまくまくやまくやまく
内壁
のまくさくと原の山とあんじく

内壁

九年正月佐左近衛權
中將さ、
在次君

同書云在原滋春藏人
頭右近中將業平二男
字在次君是也さ、

山崖中納言

系圖云後三位中納言仁
和三四薨お六十五さ、

景祐元年秋あきの既

のそく大歎おろ
やあせたくせは

ぬくらうの内うちのまけ
たく様ようのゆきとて
とづくのままで
事こととく

は男のつらう
立候たまのえあれん様
梁はりうとう

正月まつ月つきの

キセ

かのまくさくおいかくとくの伊勢いせのまく
ふしこいまくのまくまくのまく
てかのめくとくとくあくとくとくの
めれせくとくとくとくとくとくとくとく
たんとくわんのとくとくとくとくとくとく
さくとくれはやむりとく
新勅恋四
ワキとくとくとくとくとくとくとく
うねもうくのめ力めぢきのとくとくとくとくとく

キセ

いま、先あんとゆ
みも起りて人の人の
うきもねうかへ

と

いきるけ

牛取物甚の參さう
後毛一筋の筋筋じ
をもくとくとくとくと
くもくとくとくとくと
くやあくへ

夫木掛炎、世三天威を遙
くくせふもふへあと
きくつるがくひとま
るけふやそらんと佐
もとくとくとくとくとく

とくとくとくとくとく

延喜兵部式と相模國
驛馬坂本二十匹四小總
箕輪各十二匹云々^一
このとくとくとくとくとく

とくとくとくとくとくとく

ヤルシニシハのひどう
のわづれ人のひとと
あれはだくとふよや
あくへ

あくへ

射目立而跡見乃岳

邊之關麥花終手折

吾者持將去寧樂人

え爲え、

丹糸筆ナセフシヤウ

セシロカサトシテル

セシモトヒツモトヒツ
物換甚日記する

セシモトヒツモトヒツ

事ども

かくはくかくはくかくはく

かくはくかくはくかくはく

かくはくかくはくかくはく
古今哀傷

甲斐

シタ

かくはくかくはくかくはく

かくはくかくはくかくはく
の國あやめかくはくかくはく

かくはくかくはくかくはく
かくはくかくはくかくはく

箕輪

絶

かくはくかくはくかくはく
かくはくかくはくかくはく

ひ

ひ
お橋をとよりくち
一雨不あ久きうき

く
相思寒衣祝もく
トヤアあくよ
の見ゆやれ

河
木きお
帥伊周つゝま
アタシホ河アヌレ
見ゆすみわらき

支本集せ秋
河ア小舟のとよ
あくれ

白女
古今目録大江玉淵
女アホ女ア佐持は江
口邊

ひ
人のつの國よりのわが
とよアヤヤシム
あくえーアヌリモハシテ
あくれどめひま

さくぬか
うつてのまうれとわらをうれ
まれるよもをあく

大鏡
湯ゆきとひや、おまつまうれ
あくうふとあくうふ

さくぬか
たよりとつげ物あく

古今別
いのちくふんふくのう
やくみのゆのゆ

あく
影立と絆上
あくもあくもとく
あくうふとく
あくものあくとく
あくうふとく
あくうふとく

後桃符ニ
西表の西時うきと
あくまくとく
あくとく
金のあくとく
あくもあくとく
あくうふとく

日記本

院内にてお詫びを
してから時から
とくらひ
延喜左馬寮式玄倣攝
津國鳥養牧豊島牧
さへ佐日記二月廿
家ふるや河のわたり
みあらうとひのひの
いせきとひのひのひの
アシカマキマシカ
はら

タヌミキの方小
法師さうのニニハ
ウソオツキナラ
まことおおか
くらすあゆのうそと四
たまつふうのれめ
のよやう大江
のむらくのむらめ
のむらのむらは
らうおあくやくま
アユモたまつむけよ、うもまん
か

かくまなれがあれりうつはくう

そまくまはくまも
もとくはくふく
よをせぬふくめ
ちふくめあと
りつね

いたし
あきらめはく
むらうのうのう
みあんぞれふく
てうへじむく
はくふくふくの
きくわが

よみきはくくひとりのれとまは
うまくくあくふくいとくはくのよ
あわせんとわくをほくまくけだるを
おれくも

一ほれ

延喜齋宮式忌詞云
泣称鹽密云、
相重々云亦一ほた
りうらみのいねく
まうそく

流後編卷十三文室

朝臣秋津云、亦論武
藝豆称曉將但在飲酒
席似非丈夫每至酒三
四杯必有醉泣之癡態
云々豆翁も發注さ
るふきくも

相重々云冠志の語
を子のねぐの語を
はあふあくさく
上下上義下義のくわ
ア次テいがて下義

とよひときかへ帝のへりあむれりよ
たまうてゆへほあれらすくよ
あひくほふとあひやま、いだされ
ま、のくらもきとくねはりゆ
たまふあまくにゆとまわくくらむ
五位されふめめきくせんくわ
きよちあちなどのめうられがば
ようとくされ、うつまわれハツキあ
まくまくまくまくまくまくまく
二る

のうまうおふす上
下さあきうき
東院セテウタ
招運錄云源清平
參議正四位下太宰
大貳六、はんを忠
裕主のせ男子ゆ

あづか矣八
ク方之漢瀬公船沒
而今夜可君之我許
來益武六、
於き々 貢之
思ひのゆいゆのゆ
ク冬のよだの風さ
むこもあくあり

成宗公集卷第六
遇草屋夏女墓時作

歌同集見菟原處安
墓哥同集卷十九追

加處安墓哥あると
いふの故どうぞか

あつてくわすと
長られへまふひのん

和名抄云構津國菟

原宇波良云

ちぬ

古事記卷上云五瀨命
云到血沼海洗其御
之血故謂血沼海也云
ゆく肉のな泉那云
是と云忍ニ也和泉日
根兩郡と割て和泉国
とそくせりうべ
ハ和泉也ア

かくももゆるともど
歌於此のう人の
ほくたくやうともうる
くもくのよやくくとくもくもくや
思ふゆうのやうだ一様や
なまくされひきもくふりもひゆりの
れられたらゆくやうふねほい

ハれまれ
後秋下深くよ
冬く汝汝ゆくや
神と秋の葉ふくられ
まれて
佐日記五月廿二の象
ウツツのきとくの白
波とつれまされてゆつ
てまとうあくびと
おやーひの秋不ま枝
ひづくみくらはせば
のくとくの
れうう
サえね洪上來まう
とれまねきんじめ
あうひとくじた
をうむきうれう今よ
うむきあきひう
きううううてうを
うううううのうと
ハあんねうううの

傍よりかへりて
うきのいふとて
アシの毒氣を
お毒矣云々あつた
すあくわくあつた
うとおれうと
ひづく

牛をお猪上のそよみ
人より一夕をさが
のいはつてのま
うとおれうと
もくくふあひるや
草今恋三 徒人不知
星からひづくう
きなふれふまきて
うち衣きくにやと
うれよだひのう
とさく
わらひきのふきの
手のさく下のふも儀

もとよふあひたは今ひとづ
ゆひとれやんとりよふやあそび
やめよアリ人のゆきれお歌
やうきがふなすゆひわしひめ居
川のつてたわむたうとくとく
うまさかせじのゆくとくとく
やまくわのゆくとくとくとく
ああやうさればとくとくとく
思ひこゑひととくとくとくとく
ひづくとさくとくとくとくとく

當時

利波和名抄太平帳日弗贋

松きわ名

五三

さく花のあひてく
のあひれをかが
つかひゆくとくとく
もとおとおととくとく
とくとく

はかへつたまくし
うかへつたまくし
あひぢやんとくとく
うかへつたまくし
あひぢやんとくとく
うかへつたまくし
あひぢやんとくとく
あひぢやんとくとく
ふひづくとくとく
わらひきのふきの
手のさく下のふも儀

當時

六三

かわくぬふかゆもひづひいと
まみわじぬきよタなきしてのむち
いの川を走のたすくに東
どよまけむそりハシアのま
もあままればつまくとわちかめ
はは
侍ふりてれ
あふがうせう
ゆる徳う

祀あさかのほや
あのとくふ男ふくとやうだれ
不ふおちじまねむわよととく
いまひととく無く、成
まほそのへ祀に
當時

奉送

伊勢お祭卷上六
そひこしうせあひ、
ちまつのまき、

かとて泣の下の下でさよひ男との祀も
きふまねはやつてのまつり
又かとすはく祭てしらまつてもいたに
はの國の男お祀りよやうむなし國乃
人のいきて上げあひとひやうをかゝとひ
てけくくく小わみのつれおやつ
みの國れちと母アリはくまきよす
てまくなくつひふうはくもくされ
かの墓をばかふとちかたなす男乃

だく
須磨卷六
ふるあ神じあひと
かくらんちまくみ
のこれとくれま
まよひくがく

はきのむすもあしるかめくの
ひづあつたる経緯ふれ耶、まほ
あらのとふ人のてよつたりれはをう
つとこれく、みの人ふ、のまみにう
伊勢の消息男のいふを
政教活字

あすれさう
相應矣
尋ねまわるれ
はまつふまのを
うとそくとく
いひまきふ見ぞく
てひづりはれ
ちくま
女一宮
紹運錄云柏子内親王

うけとものもあむりかくあひれと
意なまきこつハのひやくのまく
歌
三之義活
やふたりておうと女一のま

かきまやく深くつゆわのまと藤
うかくひかくかのうは

まくや
いつかうまとかくわくつみ
こくうよとわほくれふ
兵衛の妻婦

はきのましむむとふとまちかくまく
東小ほとくとく
あすくまく人アーラムのう
いふの別名
うちもんじゆくわやくとくよく
わからいくふのやまくちゆく
生まくとくのやにやく案モ

古今目録云治子朝臣
春澄朝臣善徳女お
いと不
於萩抄云絲所在采女
町北お
二人の男のくとく
くふ山ふとくとく

かくは小篠とて
さて立ちてくよヒノ
アリ翁ふじをひる井
ハ村そーのめむ之

まゝひ
こゝまゝひの男
あさりてまくらを
うさぎ

莫
不

おとづらふと
あそびふと
おとづらふと
あそびふと

の事は、
おもむろに
かわされ

えふとふくまつて
きとあくま

一の事

うのまにわのあくとたのむ

水を應ふ

オト打ふといのう
えなまで冷子御殿のあ
あき

かわらやか一のまのたるのま
又もひの里ふたま
わがよのちやうじゆのわく
ももひのきわく

のうへ
牛のうへと
うへと
せ

お山政
たゞひ勇氣をれ共のよき事に爲め
かまへるがまきぬとのよき想ふおいか
とと生えらやれとお方をとくとくとく
アハシヒムリ、おろおれの御まやまんせ
わをひそみて彼のとひととゆう場とそ
ひあれあらわくものつれり

やうりあむほくふ人のいとひまつる

詩

のよきあやとよしをはれども
わすれといへれあーとがめ
時とふ血ふせられゆ男あふかても
やまのまをかみにかよ賣られくつじと
ひでかくうきりがひくしなま
力のむらりひらくといひよせうと
こがくにくわきてまよあへととくと
ちかへ諦ふときてやまくさむとくの
まきけはいりうやうのとくとくの

始

ひと
星夜泊のるの參
立のまくにひる
の小おばせふくせ
えくせふせうとく
小日下のまく
あふりふ寫まく
きく

なまくはあくわくと男まで
いづくよつむくはくとくとく
種はくかのくわくとくとく
ハかくのくわくとくとく
そくめよかのくわくとくとく
やかくとくとく
ほくとくとくとく
あふれはくとくとく
あふれはくとくとく
あふれはくとくとく
えくとくとくとく

ひと
もあそぶと袖と
もくわく女ゆゑと
とくとくとくとく
あれとくとくとく
とのくとくとくとく
きくとくとくとく

新

景行紀御刀如火波志

佐

やれと人のいふをうかがひ

達のものちよふのわざと小物こもともも

持ふおーとての上本
留女りゆめとじるにあらる
あくーーあーーは
えとまき

已いる

兼家集

あの人ひとの本市女ほんじめ
あうさかうる
あ本あほんの本ほんよかき
やうひやうひや女めもかき
うううううううう
うううううううう

とくある本

爲之保物證ためのほもく云時
あれ本ほん小こくあり

宇治於

き

卷四

大般

の下

あ

本ほん不ふ能のう

とくある本ほん

うううううううう
うううううううう

うううううううう
うううううううう

うううううううう
うううううううう

うううううううう
うううううううう

うううううううう
うううううううう

うううううううう
うううううううう

如

十六

てあらじやわづかくちもひやふやとく
いきつゝやくさくまみわづかくほく
さくはづふまひすひあふなほふやとく
つづくをきくひくほくほくほくほく
くよどいきひくほくほくほくほくほく

破

雇

うううううううう
うううううううう

古今恋二三事
ひしてやどり
秋の里のさくのよ
くよ人のき
風景よりはなれ
おもひやまもまづらひのゆゑ
あれよとふね
あ

とやうへゆきとまくらゆきをやうへ
せきとくとくあれ人のやうへとまくらゆ
宿とく
ねえあるへんに
じくある人のやうへ
すかさうへある
かふとくちく
きまくまくまく
ほくふかくわ
はまみあ
じつのまき
装束アモイサム
まやくましやく
あやまゆきはいとけ
まゆり
船のまちもホリけよかれ
余事一でよろ存候
おれぬきよりから
はくま
めのほの國とかく時もわきれといと
とくいやまよせたよのくふあく
やくわくわく
むづきよあく
あく
きまくらゆきと

からぬから
物の便宜あるて
人をもあつて

まくまくまく人むなづかすれんと
もくやうにほんのうのあくいのあら
とのひじやまけふかふほど不
せきつうかふかのうじうせゆる
これのをあむひととくはのひづかひ
あくまくなうりせんとゆひゆひ
わかひつまくやふおとせんとゆく
かやくさくけふあらふたん
あれをやくよしゆくゆくゆくゆく
／＼あく行かへやまくゆくゆく

物の
牛糞の
木の力あるて
あらわす
金きりあわせ
て対人よきよき
こゝのまこと

あくわのまことよ
あくわのたゆたゆとゆゆゆ
てこのの男かくう
もあくあれとゆく
而かくあれとゆく
ひきよめやくはのふとゆくの
ふ後くまくまくにゆくあ
ゆくとわゆくわゆく
ひくはくまくまくのゆく

わのれひよきまのへとひしよか
ちもいりよきはね難波かくへ
うきよあくとせめんかくじかくふ
みかむかのあくよとじこく
とやせかやれとひつげくまどや
らせつあのかくわくとくまづ
ゆくかくへよ耶へいつくくに
まじと無一うとひくまかまくに
もくにとふたまくわくれとわのもつ
そうすいもるを
徳ふさりきみ

され
筆をわが西郷村ち
夫云からまーつふ
うかくらきまき
徳紀小儀の字とされ
うんと訓さう
かみ
和名抄乞見和名
ナシタキスル
九十一

され
車ともえも、やさりひよかとまのへ
日暮ぬ車へともゆくまくまうれ
てくとくふまくとくとくほく
差荷ひいぬる男のかみのやくたま
たまゆるがくのあよひひだまくられ
うれとくおとくとくとくとくとくとく
もいへーおやまされとお男ふくら
これとくよくわくかくへたにけ
わくわくとくのとくまよのの音のまく

よしやか

やうやくすてまきの
まことハ例の吉良義
の筋がねえがまそ
用の字をこ合ひよ
くのゆる

後押前二云

枇杷左大臣よしやく
てあるの字と來めち
れへ

相應矣えた彼より
さふらかひゆう
わとの一筆す
ゆきうしくあくまき
例が行けばうぎ
えのあらわなれ
あふをまつて送りと
りて海へおもへ
きつたれがあふらじ

のれまき活

じとと勢をもとめやうやくすれへよしれ
物のひ様とてれひづれとまのの筋
あくやなきとてく、の後くまよの
かわらかくあひよまくせよんくと
いはくびとととよくわらうりそれ
本音かいとくのあかふ
ひきそよぐ人にのれらんとしのまき
くれはとせんへがたのめのせとあられ
うむとあんたひよかくもひき乃
留りりぬきとくせよわいとわらく

あの男
きよみの男とがい
まヒ俗のいふき
からかうじとく

まふ
きよみの男とがい
まヒ俗のいふき
からかうじとく

りふか
下の衆によつて
あるときあらへる
まつてはまきをまつて
ちれる様の云ひて

あののゆひふとくせよとくもれ
もくろたるのふり、うわせりく
往くやとあふくとしきよせ、
ひくよりひにくもいのくわとく
とわりすもひふやのくまのあれ
あらようちげとくまのせはやのめに
やくまあや、
ふれひよがひされすくまのとわくふ
せよひあくせよくまのひく
あくやくふくまのひくのひく

間

妻

納

かくかたがくら
あくゆわくあくら
せむ然かくらの
やのくら

君とえみやがれり
君のまゝゆき

いとまふのみ

やへーて
あの字書きとかくな
あらめでりと枕双が
かくれかわの筆云
ゆふのかこととて
かくかくふき

於を難下云あらふ

ちく少すあまう

アラシシカと見る

シテシテ男の声

トドクアヤシキヤマ

ホウホウアビタム

アラシシカと見る

やうとよみがえりてうるるのちハ
いのちやうふをもへらひ

同

あ、のうめくとくとく人のわのれゑめん

たうかみちみの湯ちまたみうる

揚小ばうくわきとほのれゑめん

うかくとくとく

ヨロシアリ

トヨシヨシ

アリ

